

## 惣菜さくら

地区の桜まつりにお弁当を頼まれたことがきっかけで誕生した「惣菜さくら」。旧飯田工業高校裏手の改築した民家を拠点に、毎日お弁当づくりに奮闘しています。

メンバーは現在8名のベテラン主婦。地区的会合や、農繁期には地元農家からも、お弁当や皿盛りの注文が寄せられます。地元の野菜を使い、栄養バランスに気づかい、一から手づくりで。「家庭の味を、それぞれの人に合わせてお届けしています。細かな注文にも応えられるのが、地元ならではの強み」とあります。

「主婦は365日毎日3食、家族の食事をつくっています。この技や力ってすごいと思う。その一人ひとりが持っている力を活かす場所がここ」と代表の宮沢とし子さんは力を込めます。「私たち自身が楽しく充実している」「家ではあまりつらない料理もここに来ればできる」「日々勉強」…。メンバーが口にするように、惣菜

さくらはお互いに刺激を受けて切磋琢磨し、さらに輝く場になっています。家庭内にどまっていた一人ひとりの力量が、共に働く「場」と「仲間」を得ることで、その力は相乗的に成長し輝きを増していきます。

建物の一角には近所の人たちの「寄り合いどこ」が設けられています。「弓き籠もついているのでなく、どんどん外に出きてほしい」。グループの夢である農家レストランに向かって元気な地域の未来を見据えています。

**惣菜さくら** 電話 0265-23-4894



麻績の里 座光寺便 共和号

平成26年7月 発行

■ 麻績の里ふるさと応援俱楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内) 長野県飯田市座光寺2535 TEL 0265-22-1401

# 座光寺便

信州飯田

麻績の里

2014.7  
No.15  
共和号

座光寺 19地区探訪③ 共和



共和には多くの石造文化財が散在している。  
写真は正泉寺の石碑群

共和の前身は江戸時代の流田(ながれだ)、五郎田上(五郎田下)です。太平洋戦争が始まる昭和16年頃、この二つの組がまとまって「共和」と名称を変えました。

「五郎田」の由来は五郎という人が開墾したとする説、石が「口」「口」していたとする説があります。流田は字の「ごとく水に関係した名称です。共和との周りには、水と田んぼに関わる小字が数多く残っています。かつては田んぼばかりだった共和ですが、現在は国道沿いに街が開け、戸数も82戸と増加しています。



共和 戸数:82戸

**ふるさとパック**  
**夏の味覚満載便**  
**2,000円(送料別)**



※今回のふるさとパックは、上記惣菜さくらの「しそ巻き」が入ります。クルミ、胡麻を合わせた味噌をシソの葉で巻いた、お酒にとても合う逸品です。

- お申し込み先 座光寺自治振興センター内 麻績の里ふるさと応援俱楽部 (TEL.0265-22-1401・FAX.0265-22-1475)  
E-mail:zakouji@city.iida.nagano.jp
- お申し込み締切 平成26年8月末
- お届け時期 平成26年8月末～9月上旬
- 代金は商品到着後にお支払いください。





## 座光寺の粘土瓦

瓦の窯出し作業(昭和29年4月)

### 人 探訪

黒川光穂さん(流田)

座光寺では江戸末期、すでに瓦焼製造が行われていました。慶応2年の記録に、4名の瓦師がいたと記されています。黒川さんの家も5代88年に渡り、粘土瓦の製造を生業にしてきました。

黒川家の瓦業創業は明治6年。光穂さんの曾祖父の親に当たる辰弥さんが、製造の許可願いを出し瓦製造が始まりました。明治から大正の最盛期には、座光寺に7軒の業者が瓦製造に携わっていたといいます。

祖父の政一郎さんは頑固で一刻な反面、名工の誉れ高かったといいます。その薫陶を四代目の勳さんが受け、やがて光穂さんが受け継ぎました。「元善光寺本堂の屋根瓦は、昭和20年代に親父と自分が焼いたもの。親父も職人気質の人間だった」と当時を振り返ります。60年余を経た現在も堅牢に、風雪に耐えお堂を守っています。

その後昭和36年の窯出しを最後に、黒川家は瓦製造から退きました。五代にわたった仕事の中には、多くの名作や思い出があります。現在、高森町の時の駅に展示されているものは、「昭和4年に祖父が造った鬼瓦で、いま見ても実に見事。ぜひ多くの人に見てほしい」といいます。



時の駅の鬼瓦。三代目政一郎さん作。  
高森町山吹駒場の集会所屋根に使われていた

**「拾線道路」の名残**

日露戦争後、日本経済は疲弊し、その影響は当時の座光寺村にも及びました。村ではこの打開に、荷車が通れる幅2メートルほどの道路を10本ほど造ることを決定しました。公共事業による仕事づくりで、10の本数から「拾線道路」と呼ばれました。事業は明治39年から45年頃まで、地域の人々の土地と労力の提供により進められました。正泉寺横から東に延びる道も「拾線道路」のひとつです。車社会には狭隘な道ですが、先人たちの知恵と労力が詠みこんでいることを、忘れないでいたいものです。



#### 伝統の流田組合集会所

共和の前身である流田には、明治期すでに流田組合の集会所がありました。当時まだ10戸



#### 「常勝共和」の時代

昭和40年代、共和は座光寺地区運動会で最も強の実力を発揮していました。優勝は昭和41・42・44・45・48年。準優勝は43・46年で、10回のうち計7回を制覇しています。

当時は30戸ほどの小地区でしたが、「共和」の名通り、まとまりの良さとチームプレーで栄光の時代を築いたのです。

### 座光寺 19地区探訪③

# 歩けば！が見えてくる 共和



#### 石造文化財と東山道

地区としては決して広くない共和ですが、多くの石造文化財が残されています。中でも集積している場所として、①正泉寺・②流田の吉川宅裏・③農業生活改善センター（共和の集会所）前などが挙げられます。正泉寺には座光寺で最も古の庚申塔（元禄7・1694年）があります。

石造文化財の中でも、特に馬頭観音碑が多く見られます。馬頭観音は旅の安全を願つて街道筋に祀られました。座光寺には大昔、官道の東山道（とうざんどう）が通っていました。そのルートは原地区から如来寺下を通る上手線と、恒川地籍を通る下手線の一説があり、下手線は共和の東端を通っていたと考えられます。馬頭観音碑が多い理由は、もしかしたら東山道が関係しているのかもしれません。

また、正泉寺地籍からは弥生時代中期の土器が多く出土しており、人々の営みがあつたものと考えられます。



吉川宅裏の石碑群

農業生活改善センター前の石碑群